



おがさわら

議会だより

第 118 号

平成 27 年 11 月 25 日発行 発行／小笠原村議会 編集／議会だより編集委員会 電話 04998-2-3118



敬老大会のようす

(母島の敬老の日の集いは中止)

平成 27 年第 3 回村議会定例会

第 3 回定例会（議案審議）	2
一般質問	4
委員会報告	8
決算特別委員会	10
編集後記	12



同意

- 副村長 渋谷正昭氏 (小笠原村役場職員)
 - 教育長 松本 隆氏 (元小笠原高等学校校長)
- 2つの人事案件は、共に同意しました。お二人の今後の村政への貢献を期待しています。また、議会としても今後の動向を注目していきたいと考えています。



意見書

- 安保法制に関する意見書 (清水議員提出)
 - 賛成 清水
 - 反対 佐々木 稲垣 鯉江 一木 安藤
 - 棄権 杉田

賛成少数で否決
- 今国会で平和安全法制の成立を求める意見書 (一木議員提出)
 - 賛成 一木 佐々木 稲垣 鯉江
 - 反対 安藤 清水
 - 棄権 杉田

賛成多数で可決
- 都道行文線未整備区間の整備再開を求める意見書 (総務委員会提出)

全会一致で可決

詳しくは、会議録をご覧ください。

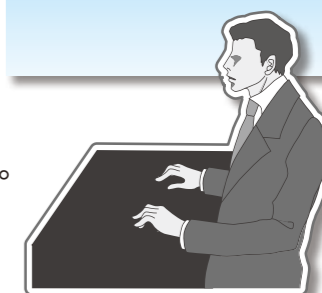
第3回定例会 (9月8日~18日)

定例 第三 会回



決算

- ラムリキュール株式会社の決算報告
- 村の26年度決算は、特別委員会で詳しく審議しました。詳しくは10ページ



補正 予算

- マイナンバーカードのプリンター購入
 - 福祉センターのクーラー等の改修
 - 太陽の郷の地下燃料貯蔵タンクの法定点検
 - クリーンセンター補修
- などの経費が予算計上されました



条例

- おもに、国のマイナンバー法が開始される ことによる、村の関連する条例の整備がされました。
- 中ノ平農業団地の使用許可を、期間が終了した者、辞退した者に対して、新たに許可することができることとしました。

地産地消の推進について
清水議員 村の地産地消推進について、村長の所信を伺う。食料自給率はどうか。先進国のクラインガルテン施策を取り入れることで、自給につなげられないか。
村長 推進には農地確保が最優先課題だ。権利関係もあり難しいが、農地の流動化を図る手だてや農業生産、流通量を増やす努力をしていきたい。
産業観光課長 食料自給率はほぼゼロだ。農園と滞在施設を提供し都市部との交流人口を増やして地域活性化を図るクラインガルテンは、国内でも多くの農山村地域で取り組まれているが、小笠原は事



清水 良一議員

情が異なる。農地の確保など、有効な対策を検討していく。
扇浦交流センターの活用は
清水議員 ①台風の避難所として地区で使えるのか。②語学学習のカルチャーセンター的に使えないか。③予約なしでも使えるオープンスペースを設けられないか。④地区の集会的な利用はできないか。⑤管理委託の検討はどうか。
村民課長 ①築 21 年の木造なので改修を計画し、強化ガラスやソーラーパネル設置も検討している。台風の勢力や進路により判断が必要で、避難所にするときは早目に広報する。②集まりに伴う材料費等の実費負担はあろうが、営利目的の有料プログラムは認め難い。③管理人等が必要になり、現状では考えていない。施設全体の貸出しは内容確認が必要のため、現状の窓口申請の方法以外はできない。④地域の自治会からの使用申請は歓迎したい。⑤新たに管理委託が必要とは考えていない。

航空路開設へ向けて
杉田議員 今後四年間、航空路にどう取り組むのか。民間の活用や都議会全会派の議決を再度求めないのか。
村長 まず執行部と議会とで働きかけ、東京都が航空路協議会を開設した上、設置場所絞込みの道筋をつけることが肝要だ。その段階では民間の期成同盟等の力もお願しい。都議会の議決は再度お願いしたい。
総務課企画政策室長 実務方としても実現に努力したい。
中国船密漁での漁業支援を
杉田議員 密漁中国船の漁場



杉田 一男議員

避難所施設と防災対策は
杉田議員 奥村交流センターなど、災害によって避難所に使えないのはどうしてか。
村長 先般の強い大型台風は直撃の予想で、扇浦で高校を避難所としたのは特例措置だ。
総務課長 台風、土砂災害、津波の全災害に対応した避難所は設定できていない。予想する災害の種類で避難所が変わるのは村民の生命を守るためだ。奥村交流センターは津波災害に本番でも活用する。防災道路ができれば台風時の活用も考えられる。防災無線の台風情報はさらにわかりやすい提供を検討したい。

一般質問

9月定例会

第3回定例会は、6名の議員から14件の一般質問がありました。



村長 4 期目の所信について
一木議員 ①航空路、②特別措置法・暫定措置法、③観光振興、④子育て支援、⑤環境保全のそれぞれについて、選挙時の公約や政策実現の方向性について伺う。
村長 ①三年後の復帰 50 年の節目には、航空路の方向性を立てたい。東京都の絞り込んだ検討結果を得るべく、早期の検討を要請していきたい。②次の時代にふさわしい改正を要望していく。農地法と特別賃借権、旧硫黄島民帰島という課題解決のめどを立てたい。③エコリズムを軸に PR や営業活動充実を図っていく。外国人旅行者誘致は



一木 重夫議員

一歩ずつ着実に進めていきたい。④保育園建替えは急務だが、災害対策条件の変更も考え合わせなければならぬ。村の実情に合わせ準備ができたものから進めていきたい。⑤豊かな自然の利・活用では村民生活と調和を図っていく。
教育行政の諸課題はどうか
一木議員 新しく設置する総合教育会議の方向性は。東京都教育庁出張所開設を要望しているがその進捗は。文科省の学力調査の結果は。五輪聖火は南鳥島まで行けないか。
村長 総合教育会議は教育委員会任せにせず行政もしっかりと目を見張れとの趣旨と受けとめ、改善に努めていきたい。
教育長 教育庁出張所開設は難しいが、要望は続いている。
教育課長 学力調査で小笠原の小 6 の算数・理科は平均正答率が高い。習熟度別や少人数指導の取組みで全体の学力向上を目指したい。聖火は、硫黄島を含め父島・母島を回る要望をしている。

安藤 重行 議員



高齢者対策、環境対策では安藤議員 高齢者が自立した生活を営むため、寝たきり予防対策にどう取り組むのか。村民課長 介護保険法が予防重視に改正され、介護予防日常生活支援総合事業が創設された。村も対応のため、気軽に集えるサロンの開設や買い物支援サービス、転倒予防教室開催などを検討している。関係機関や地域住民とも協議し準備を進めていきたい。安藤議員 今年 4 月に新設された環境課の業務とは。総務課長 世界自然遺産登録後生じてきたさまざまな事案に対し、村として自然だけでなく生活を含めた環境政策を

一元的に捉え施策を執行する。

観光産業支援への取組みは安藤議員 西之島新島ツアーを検討してはどうか。来年 7 月の新船就航への対応は。村長 夏の台風で来島者減となったが、大島・館山・久里浜の各寄港便や特別企画便を集客増につなげていきたい。西之島ツアーは、かつて村民向け企画が中止となったが、安全確保を大前提に関係各機関と検討していきたい。産業観光課長 現おがさわら丸を活用した特別企画もされている。協力していきたい。

平和都市宣言について安藤議員 戦後七十年、平和都市宣言から二十年経過し、改めて広く発信したいとのことだが、どう実行するのか。村長 小笠原の特異な歴史を広く知ってもらうため、二見港の平和都市宣言の碑についても、ホームページでも人目に触れる工夫をしていきたい。

母島沖港に防波堤整備を佐々木議員 ははしま丸安定運航のための東港活用は、東京都港湾局は完了岸壁との対応で無理だ。母島沖港に冬場、西や北から来る波への防波堤整備を実現したいがどうか。村長 観光振興、漁業振興にも港内の静止性確保が必要で、新たな消波堤の整備は不可欠と考える。沖港のうねりは今回の選挙時実感した。議会と協力し実現を考えていきたい。

佐々木幸美 議員



父島・母島の保育園整備は佐々木議員 父島保育園は津波時、裏の階段から高台に上る。母島保育園は村民会館との併用だ。優先で建替えに取り組んでもらいたい。がどうか。村民課長 父島保育園は、隣接敷地を合わせ一体的に子育て支援拠点として整備していく考えだ。母島保育園は、高台の建替え候補地が東京都の調査で土砂災害特別警戒区域に指定される可能性があり確定できていない。村は早く決定できるように努力していく。母島支所長 東京都は小笠原地区の調査を平成 28、29 年度に実施し、30 年度に結果を発表する予定で、レッドゾーン

であれば指定することだ。近くの母島診療所建設当時は現在の土砂災害防止法はなく、裏側を削り養生を施工して建てた。これもレッドゾーン指定の可能性はある。指定解除の方法はあるが、対応は調査結果を待たなければならぬ。村長 高台に避難所、村民会館、保育園合築が理想だが、土砂災害防止法の中でどの程度のものができるか。工事着工の行政手続も考えると、残された時間は多くない。今年度内に方向性を打ち出したい。

母島沖港に防波堤整備を

佐々木議員 ははしま丸安定運航のための東港活用は、東京都港湾局は完了岸壁との対応で無理だ。母島沖港に冬場、西や北から来る波への防波堤整備を実現したいがどうか。村長 観光振興、漁業振興にも港内の静止性確保が必要で、新たな消波堤の整備は不可欠と考える。沖港のうねりは今回の選挙時実感した。議会と協力し実現を考えていきたい。

稲垣 勇 議員



貨物船共勝丸の安定運航を稲垣議員 平成 24 年 12 月議会に共勝丸の件で質問が出た。ガンリン・プロパンなど危険物をはじめ廃棄物を運搬し村のライフラインを担っているが、老朽化に伴い冷蔵・冷凍が不能に陥り母島は大変困っているとのことだった。この三年間、修理や新造船についてどのような交渉をしたのか。村長 共勝丸の社長とは二回話したが、交渉はしていない。共勝丸の状態や新船建造の考えを聞き、小笠原での位置づけやこちらのお願ひも話した。今回改めて確認させたところ、三年後の平成 30 年に向け新船を造船所に仮発注

し、現船には、同型の冷蔵・冷蔵コンテナを修理次第荷受けし、油圧系は昨年修理したとのことだ。意見交換には努めていきたい。

稲垣議員 おがさわら丸がドックに入る。共勝丸の新造船に向け財政や人材支援等で共同に踏み出す提言をした。ははしま丸新造船計画で活躍した船に詳しい職員等を駆使し、住民の声を吸い上げて、よりよい船を建造してはどうか。

村長 共勝丸が新船になったときは、おがさわら丸のドック中の代船機能を持ってもらいたい。村は荷主として、直接的な財政援助等がなくても、対等に意見を交わす立場にある。新船設計も顧客の意見を聞きながら進めたいとのことだった。ははしま丸の新造船時の話や要望等も伝えている。

もしも運行不能のときは稲垣議員 万が一共勝丸が運航不能になる事態への備えは。総務課長 八幡丸という船が、いざとなればプロパンも運べるという話を確認している。

池田 望 議長



出張報告

- 6月25日 第4回外国漁船違法操業連絡会出席。(村長同行) 都議会正副議長挨拶。公益財団法人日本離島センターへ挨拶。
6月26日 小笠原諸島振興開発審議会出席。(村長同行)
6月29日 都自然環境部長、総務局行政部長に挨拶。タグホイヤー発売記念イベント出席。(村長同行)
7月14日 全国離島振興市町村議会議長会総会出席。
7月15日 都総務局総合防災部長、離島港湾部長と、情報・意見交換。
7月16日 国交省国土政策局へ挨拶。
7月17日 東京北医療センター、都立広尾病院に急患対応等のお礼挨拶。
7月28日 都町村会・町村議会議長会合同会議出席。
7月29日 都立墨東病院にお礼挨拶。
7月30日 総務省・防衛省地方協力局に基地関係交付金の要望。(村長同行)
7月31日 光が丘病院に挨拶。
8月3日 都予算編成に対する要望活動参加。
8月4日 愛らんどリーグ2015・島じまん開会式に出席。
8月5日
8月6日 自由民主党総務会長、内閣官房長官と面会し、航空路の早期開設を要望。(村長同行) 国交省国土政策局へ挨拶。(村長同行)

世界自然遺産の今後は 防災道路はどうなったか

中国サンゴ船 問題

裁判のその後の経過、国が全国的に海上保安庁の増員要望したことなどが報告されました。

問 増員だけでなく、船も含めた体制の見直しや要望が必要なのではないか。

答 小笠原への常駐の要望を今後も行っていく。
(杉田委員)

世界自然遺産

・移入種拡散防止、ア

ノールといった各ワーキング・グループ実施
・保護保全生物の村民向け講習会や説明会の実施
・母島の猫対策事業住民説明会の実施
・村民アンケート（9月実施）

これらの説明がありました。

問 アンケートは、どこが主体でどういったことを調査するのか。

答 村が主催・実施し、一般村民が世界自然遺産というものをどうとらえているのかを

主に調査する。
問 科学委員会で外来されたところがあるが、具体的にはどういふことか。

(杉田委員)

答 3月くらいに、父島母島にツヤオオズアリの分布が確認された。海外などでは、外来アリによる固有産産類への影響が事例もあり、今後、対策などを科学委員会で議論していく。

問 これらの会議の議事録は、一般に公開されているのか。

(安藤委員)

答 各会議の事務局が議事録を作り、関

係機関で共有している。完成次第、閲覧は可能だ。

防災道路 (継続)

7月号村民だよりで、防災道路の概要や、それ以前に寄せられた村民意見を広報した。その後、少数の反対意見が寄せられ、その方には意見の取り扱いを報告している。

こまかい整備方法など、議論をしなくてはいけないものもあるが、防災道路の必要性については、村民合意が得られたと考えている。

10月の村長上京時に要

望書を提出し、要望活動を行うとの報告がありました。

池田委員から、議会からは意見書を提出してはとの提案があり、意見書議案を本会議にあげることが決定しました。

その後、「都道行文線未整備区間の整備再開を求める意見書」として、全会一致で可決されています。

航路改善

新おがさわら丸・新ははじま丸の今後のスケジュールについて、報告がありました。

新おがさわら丸は、7月2日竹芝発から就航予定、新ははじま丸は、詳細は未定だが、おがさわら丸より先に就航させたいとのこと。

また、池田委員より、ははじま丸の安定就航をめざし、沖港の防波堤の要望書を出してはという提案がされ、要望書を提出することになりました。

航空路の報告

問 ATR機とは小笠原の距離を飛べる機種なのか。(池田議長)

答 充分飛べると判断しており、陳情要望活動をしていきたい。

問 3案のうち、洲崎にしぼって行かないと、先に進めない。(佐々木委員)

答 洲崎案を進めるには良いタイミングと考えている。

問 採算がとれるか、運航会社があるのかも重要な要素だ。(杉田委員)

答 今回就航したATR機に搭乗する、運航会社に聞くなど、実態の調査をしたい。

硫黄島の報告

- ・訓練、遺骨収容の実施報告
- ・交付金要望活動（議長）
- ・硫黄島訪島事業実施（6月13～16日、参加議員 池田、杉田、鯉江、一木、安藤、清水）

問 硫黄島内に地名表示を設置してはどうかという提案は、その後どうなったか。(杉田委員長)

答 訪島事業の際、GPSでの所在調査を試みている。調整をし、設置していきたい。

小笠原空港開設推進特別委員会

委員長 一木 重夫
副委員長 清水 良一

硫黄島調査特別委員会

委員長 杉田 一男
副委員長 安藤 重行

答 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用が

問 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

答 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

問 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

答 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

問 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

答 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

問 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

答 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

問 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

答 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

問 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

答 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

問 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

答 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

問 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

答 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

問 旅費の科目の中には元々出張旅費の他に費用弁償という、出勤や点検などの手当相当の費用がいく。

全会一致で可決しました。
村議会からは、特にこれらに注目して報告書を提出しました。
・今後も税の徴収率を維持して下さい。
・これまで以上に、村の施設の光熱水費の節約をして下さい。
・夜間急患搬送時のヘリポート照明は、あり方も含めてより良い方法を考えて行きましょう。
・補食給食の地産地消の工夫、特別支援教育の支援員など、子どもたちの支援をして下さい。

おおまかな 使いみち

- 議会費：議員の経費
- 総務費：村政全般、航空路など政策的なもの
- 民生費：保育園や高齢者対策など
- 衛生費：診療所やゴミ処理など
- 農林水産業費：農業・漁業振興など
- 商工費：商工・観光の地域振興など
- 土木費：村道管理など
- 教育費：小中学校の経費、文化財保護など



問 自主財源確保のため、入島税を導入してはどうか。
(清水副委員長)

答 他の税収への波及効果もあり、一概には言えない。
地籍調査が完了した箇所は、所在が判明し、固定資産税の課税徴収が進んでいるということか。
(稲垣委員)

問 判明したところはしっかりと課税徴収を行っているか。
(池田議長)

答 夜間の急患搬送は、ヘリコプターが降りられるよう、その都度照明を設置している。国境離島の点からも夜間照明の常設は必要で、国に要望して行くべき。
(池田議長)

問 当時、基地に夜間照明は不要といわれ、今のシステムとなった。まずは現在の国の考えを確認し、国防にも急患搬送にも役立つとして臨んでいく。
(池田議長)

問 都の施設保守委託等が無くなると、ケーブルテレビ利用料の値上げを検討しなくてはいけないとあるが、具体的にはどうということか。
(一木委員長)

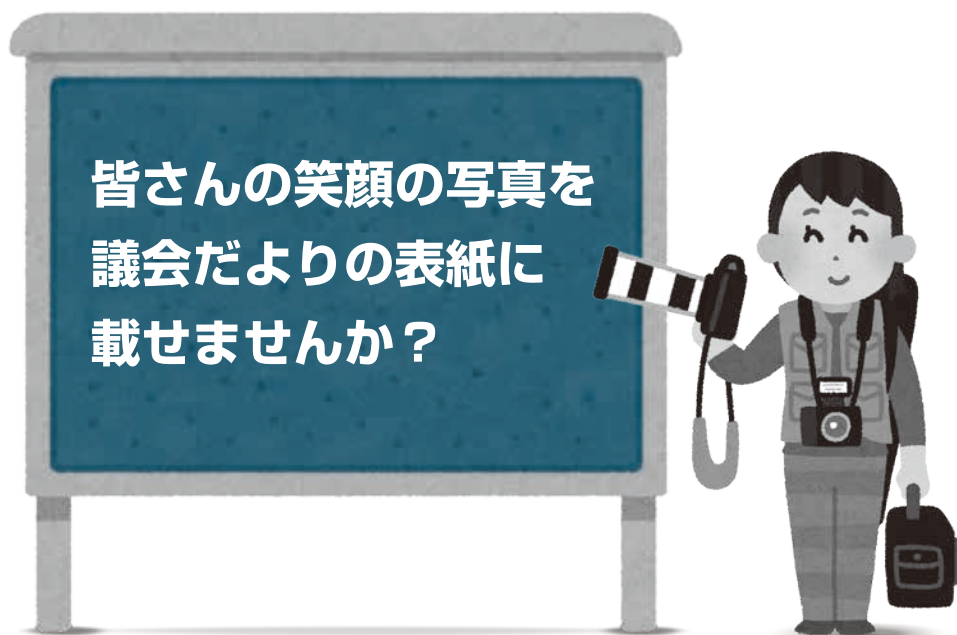
答 ケーブルテレビ事業は、村民の利用者負担の他、様々な資金で運営している。そのうち都のB Sの設備保守委託というものがあり、それが無くなると村民負担の利用料に影響が出てくる。
問 墓地の草刈は、年に数回だと草が伸びるタイミングがあるので、管理者を決め、毎日少しずつ草刈した方が良いのでは。
(池田議長)

答 シルバー人材センター設置にむけ、草刈も社協と協議している。
問 クリーンセンターは毎年維持費や補修費がかかっている。今後、ゴミ処理をどう進めていくか。
(杉田委員)

答 将来的には中間処理施設の計画をしている。プラスチックや生ゴミなど、焼却せずに資源化を進めていく。
問 母島の火葬場は、件数が少ない分維持管理が難しく、いざという時に支障が出てくる場合がある。
(安藤委員)

答 老朽化は激しい。母島の他の施設計画を見ながら対応して





- ・データでお寄せ下さい。
- ・お寄せいただいた写真は、写っている方も含めて、掲載許可をいただいているものとします。

問合わせ&送付先： 議会事務局 メール： gikai@vill.ogasawara.tokyo.jp

編集後記

「先例にとらわれない紙面づくりを目指す」前々号の編集後記で議会だよりの改善を目標に掲げました。早速、安藤委員と共に編集会議を開催。その基本コンセプトを「より住民目線で楽しく分かりやすい」「高齢者でも読みやすい」に掲げて、詳細な編集方針を定めました。まずはその第一歩として、前号では文字を大きくして、村民生活に直結する議案を中心にご紹介しました。今後、試行錯誤を繰り返しながら、より良い紙面づくりを目指します。(一木)

議会だより編集委員

一木 重夫
安藤 重行